

共生型井戸端サロンの の可能性

「いつでも・だれでもどうぞ」の
空間とは？

鈴木 利津子¹

代表研究者（鈴木利津子：りっつ） について

- ・西東京市に住んで6年経過しているが、地域との繋がりがなく家と会社の往復を続けているような状態。
- ・新宿区の地域包括支援センターで社会福祉士として勤務しており仕事では地域活動をしているが、居住地の社会資源は殆ど知らない。
- ・高齢の母と同居しているため高齢者にやさしいまちとはどういった場所なのか気になっており、またママ世代とも普段繋がっている割には関係を活かしきれていないこともあり、それぞれの想いを知りたいと思っている。
- ・多世代誰でも気軽に立ち寄れる居場所を西東京市で作れないかと思っている。

代表研究者(りっつ)の想い

- ・高齢者関係の仕事をしているので、経験に基づいたことを実践したい。
- ・高齢者だけではなく、障害を持っている方やその家族、お子さんやその家族でも自由に立ち寄れる場所にしたい。
- ・いつも楽しい場所である必要はなく、落ち込んだ時でも立ち寄れる場所にしたい。
- ・りっつがいるから行ってみようと言ってもらえるような場所でありたい。
- ・奇抜なことはやらない。欲張らない。できることを丁寧に行いたい。
- ・一人で抱え込まず、協力者や賛同者を増やしたい。

共同研究者（仲沢さん、ありっささん、みずきさん）の思い

- ・代表研究者の思いは理解できるが、コロナ渦の現状では思い描いているサロンを直ぐに作れないのではないか。
- ・それまでの間、違うアプローチでできるオンラインサロン(Spatial Chat)を使うのはどうか。
- ・オンライン／オフラインのハイブリッド型を想定し、代表者のイメージするサロンの開設を検討し協力していきたい(みずき)

トライアルオンラインサロン (Spatial Chat)～メリット～

【テーマ】1回目：雑談会、2回目：エンディングノート、3回目：終活
4回目：地域包括支援センターってどんなところ

- ・Spatial Chatを使えば簡単にアクセスできる。
- ・開催時間が決まれば場所は問わない。
- ・テーマを決めれば、参加者が望んでいる内容で進められる。
- ・集客やアンケートなどはオンライン上で簡単に行える。
- ・アバター参加により匿名性がある。
- ・設備不要なので手軽にできる。

トライアルオンラインサロン (Spatial Chat) ～デメリット～

【テーマ】1回目：雑談会、2回目：エンディングノート、3回目：終活、
4回目：地域包括支援センターってどんなところ

- ・Spatial Chatの操作方法に慣れる必要がある。
- ・開催時には数名のスタッフが必要。
- ・ワンテーマで話し合う座談会(共通の趣味や境遇についてなど)にはいいが「気軽に誰でも」という「井戸端会議」的な場にならない。
- ・テーマを決めると対象者が限定されるので「多世代の交流」になりにくい。
- ・場所は問わないが(現状では)時間はフリーにできず参加したくてもできない人も出た。

オンラインサロン (Spatial Chat) の イメージ

- ①雑談会：人数問わずフリートーク可能。馴染みの関係を作るには回数を重ねる必要あり。
- ②セミナー：テーマを決めて大人数で開催可能。
- ③個別相談：相談者に対して個別対応できる。

既存のサロン見学

①板橋区:NPO法人ドリームタウン

食事提供、寄付衣類の販売、レクリエーション
ボランティアさん活動を後方支援

②西東京市内のサロン

自宅のガレージでパンや雑貨・おもちゃを販売、絵本の貸出
月1回、3時間オープン、天候に関係なく開催
家族とボランティアさんが活動

想定しているサロンの利用者層へのアンケート

対象者

- ・ママ世代（保育園や小学生の子どもを持つ30～40歳代）
- ・障害を持っている方の家族
- ・支援者（民生委員、障害施設職員） ・障害者当事者

①お子さんは幼稚（保育）園や学校のコミュニティー（障害の方は通っている学校や施設のコミュニティーが中心になりますが）、それ以外で地域の自由参加型サロンには何を期待しますか？

②参加したい空間はどんなところですか？

③参加料はいくら位が適切だと思いますか？

④自由記載

アンケート結果①

①期待すること

(子ども世代)同世代との交流、普段できない遊びの体験

(親世代)異世代との交流、親同士の情報交換、福祉情報の交換

(障害者家族)同じ悩みの共有、利用できるサービスの案内、支援する支援されるではない対等な関係

(障害者施設職員)仲間作り、非日常空間

(障害当事者)出会い、つながり、居心地の良さ

アンケート結果②

②希望の空間、雰囲気

(子ども世代)BGM、おもちゃや本等が置いてある、飲食可能、靴が脱げる。

(親世代)Wi-Fiやテレビ(ビデオ流せる)、バリアフリー対応、駐車場完備、ワークショップやイベントができるスペースと内容。

(障害者家族)明るく太陽が当たる環境、羽根つきやバドミントンができる空間、話し相手、重度の障害の方も一緒に過ごせる環境。

(障害者施設職員)安全が担保された上で運動ができる空間。

(障害当事者)会議室のような殺風景なものではなく、花が飾っているような優しい空間。

アンケート結果③

③参加料はいくら位が適切だと思いますか？

無料(但し無料だと参加しやすいが気軽な分安易にキャンセルが出る)

フリーサロンは1000円/2時間

子ども預かりで1000円/1時間

500円、500～1000円、2000円

おやつやワンドリンク付で500円

食事や物販は別途

参加者が任意で寄付

アンケート④

④自由記載

- ・核家族化が進んで交流が少なくなっている。
- ・土日パパ同伴で参加。ママはパート勤務が削られているため出費にはシビアだが、一人時間も欲しがっている。
- ・食事のアレルギーがあるので飲食には気を付けている。持込可。
- ・子どもの年代や利用者世代によって求めるものも変化するため、対象を絞った方がいい。
- ・障害の方にとっては運動できる機会が少ない。
- ・オンラインでの参加。
- ・ガチガチなルールはない方がいい。

りつつがイメージしているサロン とは・・・✿ 研究前と研究後

年齢、性別、病気は不同

月3~4回オープン(1のつく日など)でスタート

10:00~16:00の間、過ごしたいだけ過ごせる

10:00~13:00

14:00~17:00

認知症サポーター養成講座の講義ができる

パソコン教えたり教えてもらった

BGMはリクエストを募る

ヤングケアラーがリフレッシュできる場所

見守り、声掛け、程よい距離感

古民家風

ワンコイン利用

内職、軽作業

カードゲーム今昔

悲しいことや愚痴りたいことも話せる場所

音楽療法協会の理事長が知り合い、学生の研修の場所として提供できそう

楽しいことをするだけの居場所じゃないよ

プランター栽培

古着寄付

昔の遊び教えて

美味しい飲み物の提供(紙コップは使わないよ)

お母さんを預かる間、娘さんは役所へ行ってきたら?

みんなのひろば

畳スペースがあるといいな

季節の行事を大切に

サロンに預けている間、家族が買物や手続きできますよ

障害者施設で作ったお菓子をおやつに(販売)

学生は宿題をやりに来てもいいよ。

みんなの掲示板

出かけることを教え合う。高齢者→若者、若者→高齢者、各々得意分野で。定期的なワークショップ

オンラインとリアルのハイブリッドサロンというのは?

上質な音楽の演奏(音楽鑑賞)

利用者同士の交流

りつつが通いたいサロン

西東京市独自のFacebookグループや交流会でサロンを案内し拡散する。

利用者も運営者

おやつ(障害者施設お菓子、駄菓子、焼き菓子、和菓子、地域のパン屋)

ワンコイン利用

一部に和室またはこ上がりがある

元気な高齢者と小学生がターゲット。ロコミが広がり、祖父母と孫の疑似関係が作れそう。

月に1回はイベント(認知症サポーター養成講座、障害者との集い、演奏会、マッサージ)

イベント(フレイル体操、昔の遊び(カードゲーム、将棋、囲碁、すごろく、100年これからゲーム)

BGMがかかっている

ちょこっとお困りサービス

りつつがイメージしているサロン とは・・・

- ・外からよく見える室内またはポップ看板で集客する。
- ・会議室のパイプ椅子ではなく温かい雰囲気の内装。
- ・BGMが常にかかっている。
- ・小上がりがあり、靴を脱いでくつろぐスペースがある。
- ・車いすやベビーカーが移動できる導線を確認する。
- ・おやつやドリンクが提供できる最低限の水回りがある。
- ・色々な情報交換ができる「みんなの掲示板」を設置。

想定しているサロンの具体例

①利用者のターゲット ⇒ 最終的には多世代が利用する。

- ・元気な高齢者（フレイル予防の実践者、サロン運営者にもなり得る）
- ・小学生（口コミで広がり情報が拡散される？）

②プログラムやサービス

- ・月1回3～4時間から開始、ゆくゆくは週1回決まった曜日と時間。
- ・高齢者⇔子ども⇔障害者としての隔たりがない関係性を作る。
（勉強を教える、昔の遊びを教える等）

今後の活動予定

- ・社会福祉協議会から紹介された地域活動拠点を見学、サロンの具体的なイメージをを作り進めていく。
- ・代表研究者が今年4月から西東京市の地域包括支援センターで勤務予定のため、行政側の立ち位置で地域の情報を収集することが可能になる。
- ・西東京市Facebookグループに参加し、地域の全般的な情報を収集し、協力者になりうる人と交流、サロン情報を拡散させる。
- ・西東京市医療介護関係のグループ(医介塾)に入会し、専門職と情報共有する。
- ・西東京市での趣味活動を開始し、サロン利用者や協力者になりうる人と交流する。



サロン開催に向けてこの研究をもとに
「自分が心地いいと思う空間を常に意識」
しながら、一歩ずつ進んでいきたいと思いま
す。 学びは続く… 

